

## 合唱コンクールへの取り組みについて

学校祭文化的行事にクラス対応合唱コンクールに取り組んでいる担任の先生から、「合唱コンクールに向けて学級でどんな取り組みをしましたか」と相談を受けました。私に取り組んだことや音楽の先生に教えていただいたことを紹介しました。

### 1 とにかく大きな声で歌うことが基本

一人ひとりが大きな声で歌わなければ、fやp、＜や＞の表現ができないし、歌に盛り上がりをつけることができません。気持ちよく大きな声で歌うことができれば、歌に感情を移入することができ、歌の表現が豊かになります。

### 2 一人ひとりが大きな声で歌うために

- (1) 大きな声で歌えるか否かは学級における人間関係も重要です。安心して歌える人間関係ができていられるかどうかです。音程を外して歌ってしまっても、歌詞を間違えて歌ってしまっても、クラスメートからバカにした発言がなければ安心して歌えるはずですが、日頃の学級づくりや授業づくり、音楽の授業での指導が重要です。
- (2) 大きな声で歌える並び方とは  
大きな声で歌える人を後列に入れる。後ろから大きな声で歌が聞こえてくると、それに合わせて安心して歌えるということです。
- (3) “のどを開ける”という意味からも  
ステージに立って歌うとき、ステージの反対側にある壁の高いところを目印にして、それに向けて声を飛ばす感じで歌うとよいとのこと。そのことで、顔が上がり、のどが開き、声が出しやすくなるそうです。目印に向けて声を飛ばすという気持ちが声を大きくします。

### 3 練習する環境を変えることで、意欲を持続させるために

- (1) 体育館ステージでは声がステージの上に抜けていく  
体育館ステージで歌うと声が上に抜けてしまい、一人で歌っているような感じになります。それに慣れるために、練習は教室だけでなく、運動場や近くの公園などに行き、上に声が抜けていく環境で練習します。このことは、一人で歌っている感じに慣れるだけでなく、大きな声を出すことにもつながります。さらには、練習する環境を変えることで練習のマンネリ化を防ぐことができます。
- (2) 帰りの会での歌の練習では、他クラスと合同練習を行う  
お互いに歌を披露し、よかったところと、もっとこうすればよくなるというところを発表し合います。はじめは同学年で行い、慣れてきたら他学年とも行います。上の学年は下の学年の前で歌うことになるので、しっかり歌おうという気持ちになります。下の学年は上の学年のすばらしい歌声を聞いてたいへん刺激となります。どちらの学年も緊張感をもって歌うことになり、とてもよい練習となります。  
はじめのうちは、担任が練習相手への依頼や練習時の司会を行います。やがて生徒に任せます。これにより主体性や自主性が育ちます。

### 4 コンクール当日を最高の仕上がりにする

歌でも劇でも発表当日の前日とか前々日に仕上がってしまい、当日の発表が練習時より下がってしまったという経験をしています。最高の仕上がりを当日にもっていくという精神面や技術面のコントロールが必要です。

発表日が近づいてくると、生徒たちも力が入ってきます、当日前に仕上がったとしても「これでよし。この調子で当日もがんばろう。」というのではなく、更なる上を目指して精神面や技術面での話をした方がいいと思います。「これでよし」となると、生徒たちは安心してしまい、気持ちが下がってしまうようです。